

Angels Voice

日本人たちは音楽大好き

神戸教区主教 アンデレ 中村 豊

念願のパイプオルガンが、いよいよ神戸聖ミカエル大聖堂に設置され、9月29日(日) 聖ミカエルの日に奉献式を挙げる運びとなりました。

今年の被献日(2月2日) から開始されましたオルガン献金も、皆様のご協力により順調に届けられ、800万円の目標を達成することができましたことを深く感謝いたします。

オール・セイントズ教会のパイプオルガン

戦前からのミカエル教会の信徒の方が私に数枚の写真をくれました。その一枚は、戦前、神戸にありました聖公会のオール・セイントズ(諸聖徒)教会のチャンセルで行われた聖劇のひとつです。この教会は、神戸に在住する外国人、ことに英国人聖公会信徒のために建てられましたが、聖劇の衣装を着けた子どもたちの右側を見ますと、オルガンのパイプを確認することができます。私の勝手な解釈では、1868年の神戸港開港以来、最初にパイプオルガンを設置したのは、この教会であったと確信します。残念ながら、神戸大空襲によってパイプオルガンは焼失しました。

当時、英国からは、ファー・イースト(極東)と呼ばれた日本に、船に乗って何か月もかけてやってきた聖公会信徒や宣教師は、さぞかし故国を懐かしんだことでしょう。ことに、クリスマスは格別です。この時期、故郷に帰って家族の者たちと団らんのひとときを過ごし、クリスマス礼拝に出席して、主の御降誕を祝ったのではないのでしょうか。それが果たせなかった人たちが教会に集い、子どもたちによる聖劇を観て、パイプオルガンの演奏に合わせて共にクリスマスの歌を歌い、故国のクリスマスを思い出していたことが、この写真からうかがい知ることができます。

日本人と聖歌

音楽は私たちの生活にとっても欠くべからざるものです。私の神学生時代には、夕食後、寮近くの酒屋から一升瓶と鯉や鮭の缶詰を2、3個買ってきて、これを酒のさかなにして、車座になって、酒を酌み交わしました。酔いが回ったころ、一人づつ順番に手拍子で演歌などを歌い、巧さを競いあったものでした。街の、うらびれた居酒屋で呑んでおられますと、ギター弾きが暖簾の間から顔を出します。当時、古賀メロデーが大流行でしたが、余裕のある人はお金を払って自分の持ち歌をリクエストし、辺り構わず声を張り上げて歌っておりました。この伴奏スタイルや歌声喫茶の影響が、世界的に有名になった「カラオケ」へとつながっていったわけです。

一方、日曜日の礼拝において、教会歴に従って歌われる聖歌や、結婚式・葬送式の聖歌の多くが愛唱聖歌となっております。残念ながら、そのほとんどが英国を中心としたヨーロッパやアメリカで作詞・作曲されたものです。従って、演歌などと比較しますと、一般の日本人にとって、聖歌のメロディーは、心の奥までにはなかなか響いてこないというのが本当のところでしょう。

礼拝音楽家養成は急務

聖公会の教会が日本にもたらされて150年以上経ちますが、戦前は、欧米からやってきた宣教師の主導によって教会が運営され、戦後の復興を経て、1970年代になってようやく「自分たちの教会」という意識が芽生えました。従って、将来の教会を担う若い人たちによる、信仰生活を通しての、日本の歴史や文化、風土に立脚した聖歌の作詞・作曲が大いに期待されるのです。

神戸聖ミカエル大聖堂パイプオルガンを通して、演奏家が多く育ち、聖歌隊が充実され、礼拝音楽を通して、キリストへの信仰がますます豊かにされることを願っています。

大聖堂のパイプオルガン

パイプオルガンってどんな楽器？

かつて教会のオルガンといえば、足踏み式のリードオルガンでした。現在も大切に使われている教会もありますが、今や電子オルガンが主流となりました。踏み板で風を送って音を出すリードオルガンのように、パイプオルガンも風箱に載せられたパイプ(管)によって音が出る一種の管楽器=風の楽器です。ピアノと同じ鍵盤楽器のように見えますが、その仕組みは全く違い、標準化されていません。オーダーメイドで、一つとして同じ構造・音響設計のものではなく、収める器(礼拝堂、ホール等)も千差万別ですから、一台一台が「世界に一つだけ」なのです。ですから、パイプオルガンは高価で贅沢な楽器で、経費や手間の面では電子オルガンの簡便さとは比べものになりません。しかし楽器を通じて今後展開できる宣教活動、オルガンによる礼拝音楽を通じて豊かにされる信仰に期待し、設置に踏み切ったのです。

オルガンの音量と音色

「オルガンの音量調節はどうするのですか？」とよく聞かれますが、基本的に音量調節はできません。オルガンは、「ストップ」と呼ばれるドアノブのようなものを引き出して音を出しますが、それぞれのストップは、音の高さと音色が決まっています。そしてその組み合わせによって音色、音量を様々に変化させます。使うストップが少なければ穏やかで静かな音に、たくさんのストップを使えば音量は大きく、音色もより華やかになります。

どのようなオルガンを選ぶのか

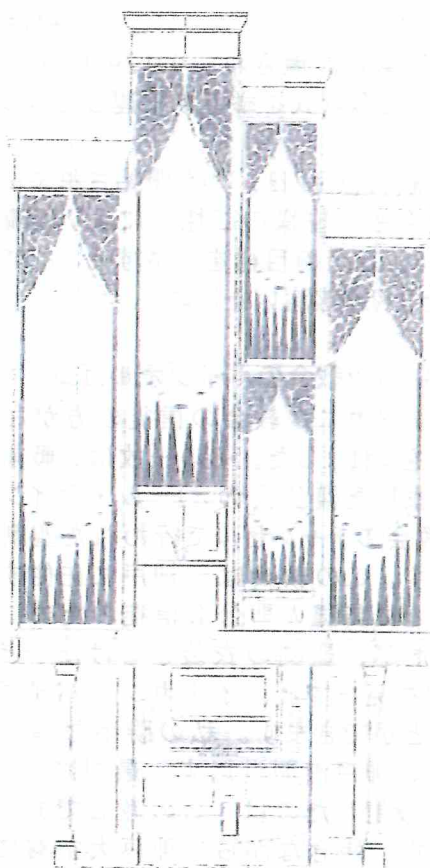
新オルガン設置にあたり、パイプオルガン選定委員会では、「2段の手鍵盤と足鍵盤」というサイズのオルガンを希望しました。これは現在使っている電子オルガンと同じです。これ以上大きなサイズ、例えば「3段の手鍵盤と足鍵盤」となるとパイプ数が一気に増え、価格は跳ね上がります。かといって今の物より小さなサイズでは、演奏可能な楽曲が制限されてきます。新オルガンは会衆聖歌の伴奏が第1の目的ですが、礼拝で弾かれる奏楽曲、また演奏会やオルガンレッスンにも対応でき、なおかつ大聖堂の大きさにふさわしく、限られた予算内で、という条件下でのオルガン選定作業でした。

ヴォワ・セレステ

そこで、最低限必要なパイプを揃え、望ましい音を持つもの一つずつ検討しました。オーボエ、トランペットなどアンサンブルに欠かせない特徴的なパイプ、そして

最後にヴォワ・セレステ(Voir Celeste)という音色を加えたパイプ仕様で、見積りをとることにしました。ヴォワ・セレステ、これはフランス語で「天使の声」という意味で、静かな弦楽器系の軽くうねるような音色です。聖歌の伴奏で使うことはありませんが、いずれ皆様にもそのデリケートな音を聞いていただけるでしょう。こうして英国マNDER社製の第1手鍵盤6種類、第2手鍵盤8種類、足鍵盤4種類の音色=18ストップ、1022本のパイプを持つオルガンに決まりました。そしてこの会報誌のタイトルが「Angel's Voice(天使の声)」です。

オルガン前面図



オルガンストップの紹介

GREAT ORGAN(グレート、第1の手鍵盤 6種類)

- 1、Open Diapason 8
はっきりとした基本の音色
- 2、Stopped Diapason 8
木製フルートの柔らかい音色
- 3、Principal 4
1と同系の音色で基底音の1オクターヴ上の音
- 4、Fifteenth 2
1と同系の音色で基底音の2オクターヴ上の音
- 5、Mixture IV 1 1/3
高ピッチのパイプの組み合わせた複合的ストップで、華やかなアンサンブル用
- 6、Trumpet 8
トランペット、アンサンブルに輝きと力強さを与える

(3ページ1段目下へつづく)

教区オルガニスト

オルガンの設置目的の一つは、現オルガニストの研鑽、将来の礼拝音楽奉仕を担う方々の発掘と育成です。そのためにオルガニストを招聘し、神戸聖ミカエル教会での月1回の日曜日聖餐式の礼拝奏楽とオルガニストの指導をお願いすることにしましたが、人選作業はスムーズではありませんでした。そんな折、徳山聖マリア教会の竹内司祭の紹介で井原由紀氏の名前があがりました。ヨーロッパでの学びを終え、ビザの都合で帰国、奏楽をしていた「英国の教会と同じ」という理由で徳山の聖公会を訪問されたのがきっかけでしたが、その後受洗、按手式を受けられて、現在徳山聖マリア教会の信徒です。パイプオルガン委員会の推薦、常置委員会の承認を経て、9月29日のオルガン奉献式でいよいよ教区招聘オルガニストとしてデビューされます。

井原 由紀氏 プロフィール

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業後渡仏。パリ・エコールノルマル音楽院ピアノ科、スコラカントルム音楽院ピアノ科修了の後、パリ国際音楽院にてオルガンをF.ルヴェシャン氏に師事し、オルガン科と室内学科を首席で卒業。その後渡英し、英国王立音楽院オルガン科

(2ページからのつづき)

SWELL ORGAN(スウェル、第2の手鍵盤 8種類)

- 7、Gedakt 8
フルート系の柔らかい音色
- 8、Salicional 8
弦楽器系の音色
- 9、Celeste 8 (ヴォワ・セレスト)
- 8などと組み合わせる、軽い唸音を出すよう調律
- 10、Chimney Flute 4
フルート系の音色、基底音の1オクターヴ上の音
- 11、Nazard 2 2/3
基底音の1オクターヴと完全5度上の音
- 12、Recorder 2
基底音の2オクターヴ上
- 13、Tierce 13/5
基底音の2オクターヴと長3度上の音
- 14、Oboe 8
オーボエ

PEDAL (ペダル、足鍵盤 4種類)

- 15、Bourdon 16
木製フルート系音色、基底音の1オクターヴ下の音
- 16、Principal 8
基本の音色
- 17、Trombone 16
トロンボーン、基底音の1オクターヴ下の音
アンサンブルをより重厚な響きにする
- 18、Trumpet 8
トランペット

にてオルガンをS.ロンダル氏に、即興をL.ロググ氏に師事し、最優秀成績にて大学院課程を終了、オルガン教授資格も取得。在欧中、セントジェームス教会(ロンドン)、サンドニ教会(パリ3区)オルガニストを務める。

マスタークラスにおいては、O.ラトリー氏、D.ロート氏、L.ローマン氏、A.ガスト氏、J.ラウクヴィック氏、P.キー氏、J.スコット氏、P.D.ペレッティ氏等のもとで学ぶ。これまでに、ロンドン、パリ、シャルトル、ボルドー、トゥールーズ、東京等にてソロコンサートを展開するかたわら、室内楽コンサートやオーケストラとの共演も多い。また、M.デュプレ賞、E.P.ビッグス賞、C.ヒュグ記念賞、E.スィーマン賞、C.H.トレヴォー賞、W.J.キップススカラシップなど、受賞歴多数。

日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

井原 由紀氏 あいさつ

このたび、主の導きによって、神戸聖ミカエル大聖堂の招聘オルガニストとして、月1回の奏楽と、教区オル



ガニスト養成を担当させていただくことになりました。まだまだ不慣れな点が多くありますが、これまでの日仏英3か国における演奏経験を生かして、神戸教区の礼拝音楽の発展に、微力ながら貢献したいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

オルガンレッスンのお知らせ

パイプオルガン委員会では、月に1度・第2日曜日 13:00~15:00 神戸聖ミカエル教会で、井原由紀氏によるオルガンのグループレッスンを行います。

教区内オルガニスト、オルガンを学んでみたい方、特に学生(小学生からOK)対象です。オルガン演奏の経験有無に関わらず、鍵盤楽器経験者はどなたでも受講できます。ご希望の方は教区事務所へ、メールかファックスで、お名前、連絡先、所属教会、鍵盤楽器演奏歴、志望動機をお書きの上、1週間前までにお申し込みください。第1回の10月13日(日)は、オルガンのパイプ説明など「新しいオルガンの基礎的学び」をテーマにレッスンを行う予定です。今回の締切は10月6日(水)です。~申し込み先~

E-mail: zao52850@syd.odn.ne.jp Fax (078)382-1095

またレッスン当日、神戸聖ミカエル教会 10:30 からの聖餐式は、井原氏による奏楽です。

今後のオルガン行事予定

- ① 9月29日(日)10:30～ オルガン奉献式
- ② 10月13日(日)13:00～15:00 オルガンレッスン
- ③ 11月10日(日)13:00～15:00 オルガンレッスン
- ④ 12月8日(日)13:00～15:00 オルガンレッスン
- ⑤ 12月21日(土)15:00～クリスマスコンサート演奏：井原由紀
- ⑥ 2014年2月10日(月)～11日(火)
大聖堂参事会主催：オルガン研修会

パイプオルガン搬入作業！！

8月初旬英国を出航したパイプオルガンは、9月7(土)神戸港に無事到着。関税手続きを終えて、11日(水)午前9:00から大聖堂への搬入作業が行われました。

晴天にも恵まれ、マンダー社のビルダー3人(ドイツ人のミヒヤエルさん、英国人のマイケルさんとロイドさん)と日本人ビルダー大久保さんの指示に従い、スムーズに作業は進みました。皆のチームワークの良さもあって当初予定していた2時間より早く、1時間半で作業は終了。ご協力いただいた作業ボランティアの皆さん、ありがとうございました!

▼積み下ろし作業を手伝ってくださった皆さん



オルガンの搬入作業を手伝って

神戸聖ヨハネ教会 グレース 藤井まりあ

はるばる海を越えてやってきたコンテナは、引越しのトラックぐらい大きくて、きっと教会まで運ばれてくる間に、トラックとすれ違った人たちは、まさかこの中身がオルガンだなんて思わなかったのではないのでしょうか。オルガンの一体どの部分なのかもわからずに運んでいましたが、パイプらしき物の重さが一つずつ違っていたので、「パイプの大きさで音が調節されるんだなあ」と感じました。オルガンが完成して、「私、このオルガン運んだんだよ!」と誇れる日を楽しみにしています。



▲気をつけて丁寧に運びました

パイプオルガン募金報告

2013年9月25日

1月1日	前期繰越	49,760
2月2日～ 9月25日	献金	8,060,364
	合計	8,110,124

*目標800万円を達成することが出来ました。

多くの方々のご支援を頂き厚く御礼申し上げます。

(献金を頂いたの方々のお名前は別紙にてお知らせします。)

【編集後記】

「お金はどうするんですか?」という私の質問に「宝くじが当たるんだ!」と主教がおっしゃったのが数年前、オルガン設置へのスタートでした。多くの方々のご協力によってこうして実現したことに皆さまに心より感謝申し上げます。

またかねてより教区内のオルガニストとその予備群、礼拝音楽に興味のあるの方々をつなぐ会報誌を発行したいと考えておりましたが、この「Angel's Voice」をお届けすることができ、大変うれしく思います。信徒の高齢化は、オルガニストの高齢化と不足、礼拝音楽の低迷へと直結し、それはどの教会にも共通する課題です。より多くの方に関心を持って頂き、将来の課題解決につながればと願っています。

礼拝音楽に関してそれぞれの教会で抱える問題、オルガニスト皆さまからの疑問質問などありましたら、是非「Angel's Voice」までメール、ファックスでお知らせください。

パイプオルガン会報誌事務局 (神戸教区事務所内)

〒650-0011 神戸市中央区下山手通 5-11-1

☎ 078-351-5469 fax 078-382-1095

Email: aao52850@syd.odn.ne.jp

会報誌編集人 原田 里香子